

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立伊岐佐小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>県学習状況調査の結果は県正答率を上回っていた。児童が意欲をもって学習に取り組み、わかる喜びを味わえるよう、個に応じた指導の質的改善を進める。</li> <li>いじめの未然防止に学校全体で取り組んでいる。法に基づきいじめの理解といじめ防止の取組みを引き続き進めていく。</li> <li>体づくり・生活習慣等について育友会と連携した取組みを行っていく必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	確かな学力、豊かな心、健やかな体 ～知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむ～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着にむけて、個に応じた指導の改善や資料提示の工夫</li> <li>法に基づきいじめの理解及びいじめを許さない学校風土づくり</li> <li>生活習慣等について育友会と連携した取組み</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	●「粘り強く学習に取り組み、調整することができた。」の質問に対しての肯定的な回答した児童80%以上	A	・教科の資質・能力や系統性を考えた学習課題の共通理解 ・授業公開(相互参観)による授業改善 ・日常的なタブレットの利活用	A	・成果指標の質問は91%の児童が肯定的な回答をした。教師の研修や学習指導が一定の効果があったと考えられる。	A	・読書活動やタブレットの活用を一層推進してほしい。小規模校の良さを生かし、個に応じた指導を継続して取り組んでいる成果が出ている。自信をもって取り組んでほしい。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業において、①自分ごととして②多面的・多角的なふりかえりしている児童75%(振り返り分析)	A	・お互いの考えを深められるような発問と交流活動の工夫 ・職員研修において、道徳の価値内容を自分ごととして考え、多面的・多角的に考える指導法の共通理解	A	・振り返りを共有する時間を設けたことで、価値項目を自分ごととして捉え、生活に生かそうとする児童の姿が見られるようになった。 ・長期休業中に人権教育を重点項目とした道徳の年間カリキュラムを検討し、教材研究を行い、実践した。	A	・人権・同和教育や道徳教育のよりよい在り方や日常生活に活かせる授業づくりを充実してほしい。地域の人材の活用など、地域との連携をさらに深めていってほしい。 ・道徳を要として各教科等と連携を図りながら取り組んでいることがわかった。	道徳教育推進教師 学級担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	A	・「いじめアンケート」(年2回)の実施 ・「こころのアンケート」(定期的)とQ-Uテストの実施 ・子どもの困り感に寄り添う児童理解研修会の実施	A	・週に1回、職員連絡会後に児童に関する共通理解の時間を設定し、複数の職員で児童を観察する体制づくりを行った。 ・なかよし人権教室や道徳等で差別やいじめ、人権について継続的に学習し、人権標語や人権ポスターに取り組んだ。 ・ピンクシャッターの取組みを行い、いじめをなくすためにはどうしたらいいか、個々に考えさせた。	A	・さまざまなアンケートやQUテスト等での児童の実態把握をはじめ、未然防止、早期発見に努めている状況がわかった。 ・スクールカウンセラーなどの人材を効果的に活用できており、児童や保護者への相談体制もよく取れていてありがたい。	児童生徒支援教員 教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	B	・「出番、役割、承認」のある教育活動の計画的な実施 ・目的意識をもち、ふるさとを大切に思う態度を育てる地域学習の実施	B	・3・4年生は、「考動」を学級目標として、日直や係活動の仕事に自主的に取り組むことに力をいれた。また、地域の方をゲストティーチャーとした豆腐やそば作り、伊岐佐藩の見学等を通じた地域学習に取り組むことができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は90%以上。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は75%であった。将来の夢は、これからはなりたい職業があるような言葉かけが必要であるし、目標は短・中期なものを設定し、児童が意識できる手立てが必要である。	B	・学校全体で相知町小学生マラソン大会や唐津市の太鼓民舞フェスタに参加するなど、各学年に応じた地域学習や交流が伝統的に行われていて素晴らしい。 ・子どもの時の体験は、大人になっても心に残っている。是非続けてほしい。しかし、改善や向上は見られるものの、当初の成果指標までは届いておらず、今後も継続して取り組むよう努力して欲しい。	学級担任
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」に向けて、自律的に生活しようとすることの良さや意識を育む教育活動	○「生活習慣100点運動」で自分のためためて達成できた」と回答した児童80%以上	A	・「生活習慣100点運動」の学期1回(5月9月1月)の取組と結果のメールや学校便り・学級通信等での発信 ・SNS等の使用についてアンケート調査の実施及び情報教育講演会の実施 ・むし歯予防、感染症予防、熱中症予防など、発達段階に応じた保健指導を実施	A	・「生活習慣100点運動」を学期に1回実施し、その都度、職員会議の参考資料として活用し、全校児童の生活の様子について検討した。 ・年間を通し、感染症対策を行った。手洗いと換気に重点をおき児童自ら対策をとれるように支援した。	A	・保護者と学校の両方で、ゲームや動画視聴の時間制限等のルールについては取組んでいくべきだと思う。 ・生活習慣の定着は極めて大事だと思う。講演会等を開き、保護者の意識を変えていくことも大事だと考える。	生徒指導主事 食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・定時退勤日の設定 ・職員会議資料の電子化、資料の事前配付による職員会議60分以内の徹底	A	・業務の優先順位を各職員が決めることで時間外勤務時間の短縮に繋がっている。 ・会議資料の作成日を前々週に設定することで、話し合いが綿密に行うことができている。職員会議を時間内に終えることができた。	A	・人材確保の面からも、業務効率化をさらに推進してほしい。職員の異動があっても、誰でもすぐにわかるようなデータ、ファイル等の整理整頓が望まれる。	管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	/	/	/	/	/	/

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組む姿勢を育てるために、めあての提示・ふり返しを書く活動を丁寧に行った。資料提示やクラスワークをタブレット端末を使用して行うことで授業改善も進んだ。</li> <li>年間カリキュラムに位置づけている人権教室や年2回のいじめアンケートを実施することで、児童は「いじめをしない・させない・許さない」ことが人権遵守につながることを理解した。</li> <li>教職員間で、児童の様子を常時伝え合い、話し合うことで、児童一人一人の育ちを共有し、指導や支援に繋がった。</li> <li>「生活習慣100点運動」を学期ごとに取り組み、家庭との連携も進んだ。</li> </ul>
--------------------	---